

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203329		
法人名	株式会社 浅野工務店		
事業所名	グループホーム 花の里・萌		
所在地	岡山県倉敷市黒石247番地の1		
自己評価作成日	平成21年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370203329&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株)東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル
訪問調査日	平成21年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまで過ぎてこられた生活や人生が継続できるようなケア、入居者一人ひとりの主体性・可能性を重視するケアを目標に、入居者一人ひとりのできることや希望を把握し、職員が全てをこなしてしまわずに入居者が関わりやすい環境を整え主体的に取り組めるように支援を行っている。家族の面会時には職員の方から積極的に声をかけ、十分に情報交換を行うように心がけ、信頼関係が築けるように配慮を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

倉敷市街地にも近く、周囲を田畑に囲まれ季節の移り変わりを肌で感じる事の出来る、恵まれた環境にホームはある。建物の周囲は木立を配した広い庭や広場、畑などもあり、屋内は清掃が行き届き、利用者にとって落ち着いた居心地よい場が提供されている。事業所代表者が家族への思いや、起業家として地元の為にとの熱い思いにより、ホームは発足している。その信条は職員の育成・処遇面にも反映され、職員の配置人数も多く、資格取得希望者への支援もなされている。職員は穏かでない対応に努めており、利用者の立場を大切にされた支援が行われて

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入職員への研修の際に当事業所の理念について説明を行っている。また、事務所の中にいつでも目にするように掲示している。	人としての尊厳を大切に、利用者や家族の思いに添った、その人らしい生活が地域の中で続けられるようにとの思いが理念として掲げられており、新入職員の研修やミーティング時などの機会を捉えては確認が為されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者が地元暮らししているため、地区の催しもの(運動会、祭り等)への参加や地域の子供たちとの交流が行いやすい。また、毎年行われている萌祭りへは地域の方が毎年多く訪れて下さっている。	日々の散歩で地域の方々と話したり、近くの幼稚園の運動会に誘われたり、小学生が手紙を持って訪れたり、日頃より交流が図られている。事業所主催の萌祭り(夏祭り)へは地域の方々が多数参加され、共に楽しいひと時を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ地区の代表の方に参加していただき、当事業所での認知症介護の実践について報告を行い、地区の方々の参考にしていただいている。また、個別にも相談に対応を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。地区の自治会長や愛育委員、家族代表、地区の包括支援センター職員、当事業所代表者、管理者、系列事業所管理者が毎回参加し、その都度テーマを決めて報告、意見交換を行っている。	2ヶ月に1回、関連事業所と時間をずらし、同一場所にて開催している。地域の各代表者や家族、包括支援センターの職員などの参加があり、サービス提供の実施状況報告やより良いホームを目指す為の意見・要望を伺う機会としている。	災害対策における地域との連携の必要性から、事業所で行う避難訓練のお知らせや参加を運営推進会議で取り上げ、日頃より不測事態に地域の協力が頂ける体制作りをされては如何かと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地区の包括支援センター職員と運営推進会議の際に積極的に意見交換を行うようにしている。また、日頃のケアサービス上での疑問点や不安なことがあった場合は市の介護保険課へ問い合わせを行うようにしている。	運営推進会議の機会を捉えて情報交換したり、市よりの情報は職員全体で把握し、支援に取り入れるように心がけており、日頃から連携を図り協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職員への研修の際に身体拘束について説明を行っている。また、不定期であるが身体拘束についての勉強会を行い、職員一人ひとりが身体拘束について正しい知識が持てるように努めている。	身体拘束防止についての委員会が置かれ、職員全員が正しい理解のもと知識が持てるように心がけている。個々の状態については、カンファレンス会議などの機会に検討し、家族とも相談しながら、必要時には同意書を頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職員への研修の際に虐待防止について説明を行っている。また、不定期であるが虐待防止についての勉強会を行い、職員一人ひとりが高齢者虐待について正しい知識が持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度については、代表者が家族からの相談に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に一通り説明したあと、質問、疑問などに答え、納得した上でサービスを利用している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見、要望などいつでも受け入れできるようにしている。又、意見などの申し入れがあった場合は、早急に対応するよう努力している。	家族の来訪時には、日々の利用者の様子を伝えると共に意見や要望を伺うように努め、前向きに検討を心がけている。「職員名が把握しにくい」との家族会の要望を受けて、現在は職員名の入ったエプロンを着用している等の改善が為されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と共に、月1回ミーティングを開催し、参加職員が意見交換しやすいようにしている。	ユニット毎に月に1回ミーティングを事業所代表者の参加のもと実施しており、職員の活発な意見交換が図られ、代表者へも直接意見を述べる事が出来ており、その意見の反映が為されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日職員と同じように勤務することにより、毎月の勤務表を作成するなど、職員1人ひとりを把握しており、個々の相談にも対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場全体の課題を共有できる機会の設定、仕事上の問題点を話し合う機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新規ホームの立ち上げの同業者などに、当ホームでの実習及び勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時や、入居直後にコミュニケーションを多くとることにより、安心して過ごしていただけるよう配慮を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階より、時間をかけ相談を受けるように努めている。 入居前面接時や入居後の面会時にもご家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの段階より関わりを持つことにより、支援の見極めが行いやすい環境作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されている方の一人ひとりの特性や能力を踏まえつつ、可能な範囲で身の回りのことや家事が行えるように支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に十分情報交換を行い、一緒に支援を行っているという意識を持っていただけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方と面会や電話による関わりを支援している。また、希望に応じてドライブ中に家の近くを回ったり、思い出の場所への外出も支援可能な体勢を整えている。	県外の友人と定期的には手紙を交換したり、電話で話しをする方、自宅が気になり帰宅される方、また近所から友人がタクシーで来られ半日位一緒に過ごされる方など、利用者の今までの関係を大切にしたい、意向に添った細やかな支援が為されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにて過ごされる方が多く、入居者同士会話を楽しまれている。一人ひとりの個性や入居者同士の相性を考慮し、さりげなく席替えを行ったり職員が間に入ったりしながら良い関係が保てるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望に応じて、対応できる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が可能な方に関しては普段の会話により把握に努めている。 会話が困難な方に関してはご家族からの情報や日々のご様子によりご本人の立場に応じ検討を行っている。	利用者のこれまでの暮らしぶりを十分に把握し、日頃のかかわりの中で本人の意向を確認するように努め、常に本人本位に対応するように心がけている。意思疎通が難しい方には、本人にとってどうかという立場での支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時の面接の際や入居後のご本人、ご家族との会話の中でどのような生活をしてこられたかを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ストレスなく快適に過ごしていただけるように、一人ひとりの個性、能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、主治医等の関係者と情報交換を行いながら、ご本人、ご家族の希望や意向を踏まえた上で現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	利用者や家族の意向を尊重しながら、月1回のミーティング時にカンファレンス会議を開き、職員全体での検討・確認を心がけている。プランは毎日の個人記録に織り込まれ、日々の実施状況が把握され、介護計画評価表にてのモニタリングも為されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、1枚で24時間の生活状況が把握できる様式になっている。また、ケアプランが反映できるようにしておりモニタリングにも使用することができるため介護計画の見直しにも活かすことが可能となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所での対応が困難と思われるような事柄が生じた場合にも代表者が可能である限り相談に応じる体制を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、地域の包括支援センターや市の関係機関との連絡をとり、状況に応じた対応が行えるように努めたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医を受診できるようにし、受診の際には日々の健康状態が把握でき適切な医療が受けられるように努めている。	馴染みのかかりつけ医への受診希望には、可能な限り職員同行にて対応している。歯科往診もあるが、希望する歯科の受診にも対応している。受診時の情報提供の資料は日頃よりバイタルなどを利用者別に一月毎にまとめて作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師により健康管理を行っている。24時間対応可能であるため、健康状態に不安がある際や緊急時には状況に応じた支援を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的にご家族への連絡、ご本人の面会を行い、治療状況等の把握を行っている。退院が近くなれば病院関係者と退院後の生活について情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所の指針に沿って対応を行っていく旨を入居者本人及び家族に説明し同意を得ている。	日頃より話し合いの機会を捉えて前向きに検討しており、医療機関の協力のもと、出来るだけ本人や家族の意向に添いたいと思っている。現在、重度化しているが、24時間体制での対応可能な主治医の往診があり、家族の意向も尊重して、ホームで過ごして頂いている利用者がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置等については新入職員の研修の際に行っている。消防訓練は年2回定期的に行っている。また、不定期であるがミーティングの際に勉強会として行うこともある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、定期的に避難訓練及び消防訓練を行っている。 また、日頃から代表者を通じて災害時には地域とお互いに協力し合えるよう関係を築いている。	年に2回の定期的な避難訓練が夜間想定も含み実施されている。今年度は6月に消防訓練を消防署や業者の立会いのもと行われており、次回は12月の予定である。目の前に同一法人のグループホームがあり、協力体制を築いている。	代表者が地元に住居しており、日頃よりの地域交流がなされているが、運営推進会議を活用して、情報交換や地域の方の訓練参加などを図り、より地域との協力体制作りを推進して行かれてはと思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が、人生の先輩として尊敬を持って対応できるように努めている。	ていねいな言葉かけで、相手の目線に合わせた立ち居振る舞いが為されている。「どちらがよいですか」と、まず本人の意向を伺ったり、さりげない排泄支援などに、利用者の尊厳を大切にしながら日々の対応を感じる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者ご本人が自らの意思や希望を遠慮する事なく表せるよう、日常生活上での言葉かけや支援の方法を工夫するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、ご本人の自己決定を尊重していますが、希望を訴えられない方も多いため職員が支援を行う場合も多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服は入居者ご本人が決め、身だしなみを整えられている。ご自分で行えない方も職員とご本人と相談して決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手なものや食べにくい物を他のものや食べやすい形状にするなど食事が楽しく行えるように工夫を行っている。 可能な方には、調理の手伝いや洗い物を職員と一緒にさせていただいている。	利用者と職員と一緒に食事をしており、楽しそうな会話も為されていた。刻んだり、ペースト状にしたり、苦手なものは好みのものに換えたりと、一人ひとりの状態に合わせた対応が行っている。食後は下膳する方、洗う方などと自然な様子が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量が少ない方に関しては、その方のお好きな食べ物や飲み物を時間を制限する事なく提供する等、お一人ひとりの状況や能力に合わせ支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に声かけを行い、ご自分で行えない方には介助を行っている。 義歯使用の方には、每晚就寝前に洗浄剤に浸けて消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや訴えに合わせて、トイレ誘導やパット交換を行っている。尿・便意のない方でも適切な時間に誘導を行うことによりトイレで排泄が可能となっている。	利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの状態に合わせ、さりげない言葉かけ、誘導を心がけている。個別に時間に沿った記録をしており、可能な限りトイレでの排泄が出来るように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食品をバランスよく摂取していただけるような献立作りや水分や乳製品を多く摂っていただけるように配慮を行っている。また、日課に体操や散歩を取り入れる等、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数の制限はなく、毎日入浴される方も多くおられます。基本的にはご本人の意思を尊重させていただきますが、できるだけ週3回以上は入浴していただけるように時間をずらして声かけを行ったり、誘い方を工夫するなど	利用者の希望を大切に、いつでも入浴出来るようになってきている。職員全員が把握しやすいように入浴の確認表を作り、もれのないように心がけている。浴室は床暖房、脱衣所には腰掛けるスペースがあったりと、入浴を楽しむ配慮を感じる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや体調に合わせて、日中休息をとっていただいている。就寝時間も一律とせず、ご本人の希望に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が入居者一人ひとりの処方薬について把握し、正しく服用していただけるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性を大切にしながら、生きがいを持って生活できるように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員は、希望があれば、可能な限り支援が行えるようにしたいと考えている。	ホームは田畑に囲まれた場所にあり、毎日のように散歩に出かけている。受診時を活用したり、ドライブを兼ねて買い物や外食したりと、利用者の意向を尊重した対応を心がけている。紅葉狩り、いちご狩りなどの行事として出かける機会もあり、気分転換を図り、楽しく過ごして頂けるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のみ自己管理されている方もいらしゃいますが、ほとんどの方は施設で管理している。 買物の際には、ご自分で支払いが行えるように援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、その都度支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、清掃や環境整備を行い、清潔な環境で落ち着いて過ごしていただけるように配慮を行っている。また、季節を感じて頂けるような雰囲気作りにも配慮を行っている。	共用空間は適度な明るさで、掃除が行き届いた清潔な場となっている。昔ながらの足踏みミシンが置かれたり、季節感のある絵や利用者の作品が飾られ、落ち着いた雰囲気である。居間を少し離れた場所にソファが置かれ、一人の時間を楽しむ事も出来、居心地よい空間作りが為されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外でもゆったり過ごしていただけるように、ロビーや廊下にソファや椅子を配置しお好きな場所でくつろいで過ごしていただけるように配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より自宅で使用していた家具や小物を持ってきていただいたり、ご本人の好みのものを居室に配置することにより自宅と同じように居心地よく過ごしていただけるようにしている。	タンス、鏡台、テレビなど、利用者が今まで使用していた家具や日用品が持ち込まれており、自分の好みに合わせた部屋作りが為されている。配偶者の位牌や仏壇を置き、日々手を合わせる利用者の姿も見られ、その人らしい暮らし振りが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を十分行い、移動が問題なく行えるよう、危険のないよう配慮を行っている。 トイレに貼り紙を行う、居室前のわかりやすい場所に表札を掲げる等、迷うことなく移動が行えるよう配慮を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203329		
法人名	株式会社 浅野工務店		
事業所名	グループホーム 花の里・萌		
所在地	岡山県倉敷市黒石247番地の1		
自己評価作成日	平成21年10月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370203329&SCD=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株)東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成21年10月23日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の目的つく場所へ張り出しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者が地元暮らししているため、地区の催しもの(運動会、祭り等)への参加や地域の子供たちとの交流が行いやすい。また、毎年行われている萌祭りへは地域の方が毎年多く訪れて下さっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ地区の代表の方に参加していただき、当事業所での認知症介護の実践について報告を行い、地区の方々の参考にしていただいている。また、個別にも相談に対応を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、当ユニットの利用者様の状況の報告を行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地区の包括支援センター職員と運営推進会議の際に積極的に意見交換を行うようにしている。また、日頃のケアサービス上での疑問点や不安なことがあった場合は市の介護保険課へ問い合わせを行うようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行っていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、勉強会は行えていません。職員間では、その場面その場面で話し合いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度については、代表者が家族からの相談に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に一通り説明したあと、質問、疑問などに答え、納得した上でサービスを利用している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見、要望などいつでも受け入れできるようにしている。又、意見などの申し入れがあった場合は、早急に対応するよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と共に、月1回ミーティングを開催し、参加職員が意見交換しやすいようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日職員と同じように勤務することにより、毎月の勤務表を作成するなど、職員1人ひとりを把握しており、個々の相談にも対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場全体の課題を共有できる機会の設定、仕事上の問題点を話し合う機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新規ホームの立ち上げの同業者などに、当ホームでの実習及び勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めています。 ご本人様の会話のペースに合わせ、顔を見ながらゆっくりお聞きしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めています。 入居前面接時、入居後の面会時にはお話をさせていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々をどう楽しんで過ごしていただけるかを職員間で検討しあい、またそれぞれ各利用者様に、その都度どうしたいか問いかけながらご本人に決めていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様を軸に、ご家族とどうあれば一番良い状態でいられるかを面会時に話し合っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	9名すべてというのは難しく行えていませんが、中には近所のお友達が面会に来てくださったり、ドライブ中に家の近くを回ったりしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はホールにて各自過ごされることが多く、良く話をされています。言葉がでにくい方とは間に職員が入りお話ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望に応じて、対応できる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行えています。 その上でご家族と相談しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族よりお聞きしています。入居後も会話の中でどのような生活をしてこられたかをお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めています。 ・日課としている事柄 ・食事、水分量、バイタル ・愁訴		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時にそれまでの状況説明を行った上で今後の希望、意向をお聞きし、ご本人を交えて職員間で検討を行ってプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしています。 個人記録は24時間で割っており、その時間に気付いた点、行った事を記入しています。これをもとに異変時には対応できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所での対応が困難と思われるような事柄が生じた場合にも代表者が可能である限り相談に応じる体制を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、地域の包括支援センターや市の関係機関との連絡をとり、状況に応じた対応が行えるように努めたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援しています。 入所時にかかりつけ医と緊急を要する場合の病院をお聞きしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援しています。週1回、訪問看護師による状態観察を行っています。それまでの状態説明をし、指示を受けています。職場の看護師とは常に情報交換し、ご利用者さまの状態を把握しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、状態を聞いています。その際に退院の目途も合わせて聞いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所の指針に沿って対応を行っていく旨を入居者本人及び家族に説明し同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練としては、消防訓練を定期的に行っているのみで応急手当等の訓練は今のところ行えていません。急変時の対応(事故等の対応)マニュアル(連絡網)があります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行えています。 人生の先輩として尊敬を持って対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的には、ご本人の自己決定を尊重しています。そうすることにより、思いや希望が表出していると思われます。希望に添えない場合はご本人と話し合いでせっちゅう案を見出します(職員間とも話し合います)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援しています。 基本的には、ご本人の自己決定を尊重しています。希望に添えない場合はご本人と話し合います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援しています。 その日着る服はご本人と相談して決めています。ご自分で行える方もいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	限られた方になりますが、時々調理を一緒に行ったり、味付け、盛り付けまでして下さいます。また、食器の片付けも一緒に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援していますが、中には眠気が強く他の方と同じ時間に食事を摂られない方もおられ、その方に関しては時間をずらし、できるだけ食事、水分を摂っていただくようにしています。食べられないときには代用のものを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でされる方は、声かけ(準備)にて行っていただいています。介助の方は行えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、全員トイレでの排泄を行っています。尿・便意のない方は定期的に声かけ介助を行っています。夜間は定期的にパット交換、確認を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。歩行・立位訓練を行っています。また、牛乳にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	支援しています。基本的には自己決定を尊重しています。タイミングが合わないときは時刻をずらして再度声かけを行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援しています。日中、夜間状況に応じて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めています。全員が理解しているとは言えませんが、新しく処方された薬や服薬時、塗布時に声かけを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援しています。体調状況にを考慮しながら行っています。 ・散歩・ドライブ・買い物・日光浴・お菓子作り・日光浴等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には行えていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名、少額を自己管理していますが、現在はご本人で使用されていません。他の方は施設で管理しています。(前記2名の多額のお金も施設管理です)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方の支援はしていますが、希望されない方については行えていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物、汚物等注意をはらっています。また、温度、湿度についてもこまめに注意しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの所々に椅子、ソファ、机を配置しそれぞれが「その時居たい場所」を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、ご家族にはご本人が使われていたもの(たんす、小物、机等)を持ってきていただくように伝えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備、時に足元に危険のないようにつとめています。 また、テーブルや椅子の配置についてもその都度工夫しています。		